

2010.6.17「看板のすげ替えで中身のないアキカン内閣の逃げ得を許すな」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

昨日、通常国会が閉幕しました。今回の通常国会は異常であったと言わざるを得ません。国会が始まった当初の総理大臣は鳩山由紀夫氏でしたが、6月2日に突然辞意を表明され、その一週間後に新たに菅内閣が発足しました。政治とカネの問題と普天間基地の移設問題がきっかけとなり、鳩山内閣は退陣を余儀なくされ、その結果として菅内閣が発足しました。しかし、政治とカネの問題、普天間基地移設問題など、鳩山内閣の問題を全て継承しています。

つまり、問題解決は全くされていないのです。さらに、鳩山氏から菅氏に代表が代わり、財政のムダを無くしていくと公言していたマニフェストが、いつの間にか、財政を健全化するために増税をすると、変わってきています。その他にも、目玉政策であった子ども手当は、来年は半額しか支給しないようであり、予算も未定のようです。このように、次々と政策方針が変更されています。7月の参議院選挙では、これらの事が国民の前に明らかになり、その評価として選挙があるべきです。そのためには予算委員会の審議は欠くことができません。

今まで、自民党政権の内閣が短期間で終了してしまうことがありましたが、その度に、代表質問はもちろん、予算委員会を開き、野党からの厳しい質問を受けた上で政策を実行してきました。これが当たり前の姿なのです。しかし、今回は説明責任を果たしていません。小沢・鳩山両氏の問題についても、臭いものに蓋をするだけで、政策の大きな方向転換について何も回答していません。さらに、菅総理の側近中の側近と言われた荒井国家戦略大臣も、自らの事務所費について疑惑を持たれています。また、事業仕分けも目玉政策の一つでしたが、今回の「はやぶさの奇跡の帰還」に代表される日本の科学技術費を削ってきたのが民主党政権なのです。今回の選挙の前に、これらのことを国民に説明をするべきなのですが、菅内閣は全く説明責任を果たそうとしません。鳩山内閣末期には支持率が2割を切っており、民主党は、参議院選で大きな敗北をするだろうと言われていました。しかし、鳩山内閣から菅内閣に変わった途端にV字回復をしてしまいました。回復している間に選挙をしたいというのが、菅総理の本音でしょう。蓮舫氏も支持率が高く、人気もあるようです。しかし、これは選挙のためだけの姑息な内閣だと思います。

同じ事が昨年の衆議院選挙でもありました。小沢氏は西松建設事件の際、検察に対し、「これは国策調査だ」と、とんでもない発言する一方で、自分は無実だと主張しながら、疑惑を持たれたことに責任を取って代表を鳩山氏に譲るとし、この首のすげ替えによって民主党の支持率は一挙に上がり、自民党は下野しました。

今回も二匹目のどじょうを狙う同じ手であり、国民を愚弄した行為です。しかし、一番の問題はマスコミが一切この事を報道しないことです。沖縄の問題も、鳩山氏が政権を投げ出すまでは連日報道していましたが、今は全く報道されておりません。しかし、沖縄県民が納得しているのかといえば、そうではなく、沖縄の方はみんな怒っています。サッカーのワールドカップばかりが連日報道され、政治の一番の問題が国民に知らされないまま選挙に突入

していることが、一番の問題なのです。これに私は憤りを感じております。

仮に今回の参議院選に民主党が勝ったとしても、菅内閣は間違いなく一つの国会を乗り切ることができないと思います。説明責任を果たさず、出鱈目な事業仕分けや政権公約をしてきたツケが必ず回ってくると確信しているからです。しかし、その時になって菅政権が倒れたとしても、既に衆議院で300議席、参議院でも単独過半数の議席を彼らが持ってしまうと、どんなに大きなスキャンダルや政策の誤りがあっても、彼らを止めることはできません。その事を是非、国民の皆様方に知って頂きたいです。

今回の参議院選挙では民主党のこのような出鱈目な姿勢に対して厳しい判断をして頂きたいと思います。そうでなければ、日本の政治や民主主義は崩壊してしまいます。何を言っても、何をやっても、選挙に勝ち、政権を執ってしまうと国会の中で説明責任も果たさなくていい、こういう政権が続いていくことは、なんとしても止めなくてはなりません。民主主義の崩壊を止めるためにも、皆様方の大きなご支持・ご支援をお願い申し上げます。ありがとうございました。